龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

龍谷大学
学修支援・教育開発センター通信

Ryukoku University Learning Support・Educational Development Center Report

2018
02

龍谷大学
RYUKOKU UNIVERSITY

学修支援・教育開発センター ｜ 〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel 075-645-2163　Fax 075-645-2190　http://www.ryukoku.ac.jp/faculty/fd/index.html
発行日：2019年6月　編集・発行：龍谷大学 学修支援・教育開発センター

FDフォーラム

FDサロン

学生FDサロン

学生FDサロン

2018, Number 02

CONTENTS

十学部合同学生会主催
p03 「第２回学生FDサロン」開催報告

第14回龍谷大学FDフォーラム2018開催報告
p04 「龍谷大学における学修者本位の教育への転換」
～龍谷IP・龍谷GP事業による教育改革の事例報告

FDサロン
p06 「高校現場のアクティブラーニング」開催報告
「manaba courseを使用した授業展開」開催報告

2018年度第２学期
p07 「学生による学期末の授業アンケート」実施報告

p07 2018年度ライティングサポートセンター実績報告

p08 2018年度学修支援教育開発センター事業内容報告

p11 新着図書の紹介

十学部合同学生会主催

「第2回学生ＦＤサロン」開催報告

2018年度第2回学生FDサロン

「龍大一受けたい授業～学生が求める学びの到達点～」

学生の正課環境の改善・向上を目的に活動する十学部合同学生会が学修支援・教育開発センターとの連携のもと、毎年学生FDサロンを開催しています。

2018年度2回目となる今回の学生FDサロンは、龍大一受けたい授業～学生が求める学びの到達点～というテーマを設定しました。瀬田学舎では10月3日（水）に学生交流会館、深草学舎では10月4日（木）に和顔館スチューデントコモンズにおいて開催し、学生・教員・職員がグループに分かれ、意見交換を行いました。

※十学部合同学生会が中心となり企画・立案・運営する学生主体のFDサロン

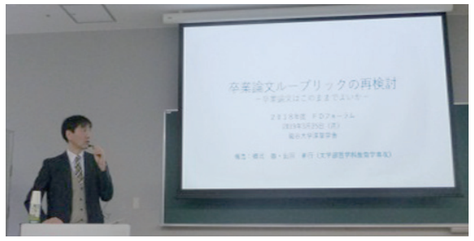
第14回 龍谷大学FDフォーラム 2018開催報告

2019年3月25日（月）に第14回龍谷大学FDフォーラムを開催しました。開催内容は「龍谷大学における学修者本位の教育への転換～龍谷IP・龍谷GP事業による教育改革の事例報告～」と題し、本学で実施している教育改革・教育改善に資する取組を選定し、支援するための事業（龍谷IP（Inventive Program）・龍谷GP（Good Practice））に選定されたものから、学修者本位の教育への転換をテーマにルーブリックやアクティブラーニングの取組で得た成果や課題を共有しました。

事例報告①

卒業論文ルーブリックの再検討 ～卒業論文はこのままでよいか～

出羽　孝行（文学部教務主任／准教授）



文学部の卒業論文ルーブリックについて、学生と教員に活用状況調査を行い、その結果を文学部FD研究会で取り上げたときの内容を報告。教員からの評価は高いが、学生への浸透度が低いことが判明したため、今後もルーブリックを継続的に使っていく必要性があると説明がありました。

事例報告②

法学部版アクティブラーニング推進事業 ～出口を意識した教育改革に向けて～

牛尾　洋也（法学部教授）

本事業を契機に新設した「法政アクティブリサーチ」科目について、導入の背景・目的、取組事例等について報告。参加学生にとっては、深い学びに繋がるだけでなく、社会との繋がり・社会で活躍することを意識したプログラムとなっていることもあり、就職活動にも好影響を与えている様子が伝えられました。

事例報告③

グローバル人材育成を目指すASEAN体感プログラム ～ベトナムおよびシンガポールの大学・企業をめぐる理工系スタディツアー～

宮武　智弘（理工学部教授）

理工学部2回生対象のASEAN地域を巡るプログラムの活動を報告。参加学生が、提携大学および現地日系企業と共同でPBLを実施し、海外での活動ならではの様々な気づきを得られた様子や、実施前と後にアセスメントテストによる自己成長把握の仕組み、さらに外部の評価委員による評価についてなど評価指標についても紹介されました。

その他報告④

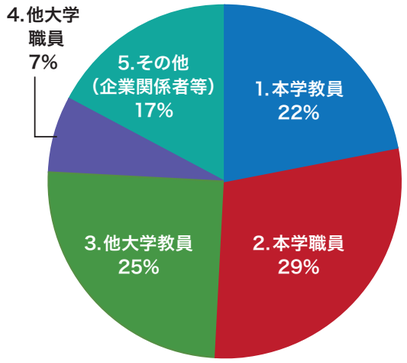
龍谷大学における教学IRの取組について

藤田　和弘
（学修支援・教育開発センター長／理工学部教授）

龍谷大学の教学IRについて、組織体制や大学IRコンソーシアム等のアセスメントテストについて、分析結果を交えて報告がありました。これらを踏まえ、専門人材の育成や教学IR用データの管理手法等が今後の課題であると締めくくられました。

（事例報告後の全体意見交換会）

【参加者内訳】



【参加者の声】（アンケートから）

<本学教員>

・卒論の評価基準としてルーブリックを使うことの意義と、限界（悪い意味ではなくて）が分かりました。文学部でここまで合意形成されたこと自体、すばらしいことだと思います。

<他大学教員>

・現在、関心を持っている事項（ルーブリック、AL、PBL、PROGの活用）をそれぞれの事例報告で実例を詳しく知ることができ、期待以上に参考になりました。ありがとうございました。

・学生の教育内容の質的転換の実例について、報告いただきありがとうございます。学生が成長するのは大切ですが、教員の負担も大きくなると予想されます。この点について今後検討いただけると幸いです。

<本学職員>

・中教審の2040年に向けた高等教育のグランドデザインでは、学びの質保証として、学修成果の見える化や、情報公開が求められているが、社会で求められる主体性や協調性、コミュニケーション能力は何をもって身に付いたと言えるのか、そもそも評価ができるものなのか分からず、そのヒントが得られればと思い参加しました。また「学修者本位の教育」とは何なのか、知りたいと思って参加しました。
各先生方が実体験を持って取り組まれていることを聞けたことは大変有意義な機会となりました。ありがとうございました。

FDサロン「高校現場のアクティブラーニング」開催報告

2018年10月16日（火）に「高校現場ではどのような授業が行われているのか～京都府立西城陽高校のアクティブラーニング型授業の事例から～」と題し、FDサロンを開催しました。本サロンは、近年ますます高大接続の重要性が増し、高等学校と大学の一体的な改革が求められていることから、高等学校の教育現場とりわけアクティブラーニング型の授業の実態を学ぶために行われました。

当日は、実際に高校の授業でアクティブラーニングを行われている西城陽高校の大川沙織先生をお招きし、実際にどのような授業をしているのか、具体的な授業実践方法についてお話頂きました。

FDサロン「manaba courseを使用した授業展開」開催報告

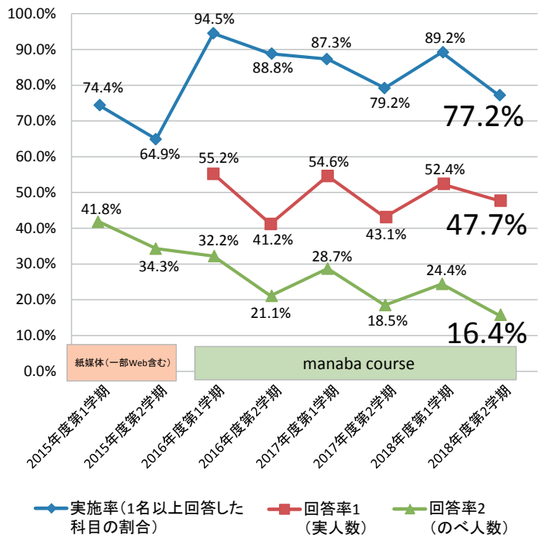
2018年12月12日（水）に本学で導入しているLMS（Learning Management System）のmanaba courseに関する講習会を行いました。manaba courseを使用した実際の授業展開を想定して、授業内での場面に応じて、manaba courseで使用する機能について、（株）朝日ネット（manaba course開発業者）担当者に説明してもらいました。

2018年度第2学期「学生による学期末の授業アンケート」実施報告

「学生による学期末の授業アンケート」は、2016年度からmanaba courseを活用した方法へ移行しました。3年目となる今年度の第2学期の実施率※1は77.2%（対前年度比2.0%減）、回答率※2は16.4%（対前年度比%2.1減）となりました。

学修支援・教育開発センター（教学企画部）では、2017年度に教学IRの定義※3を定め、教学IR機能の整備と、機動的な意思決定に資する分析を進めようとしています。「学生による学期末の授業アンケート」の結果についても解析をおこない、授業改善活動や学部等の組織的な教育改善活動に活用できるよう支援していきます。

※1…回答科目（1名以上の回答があった科目）数÷対象科目数×100
※2…回答者数÷受講登録者数×100
※3…2017年度第4回学修支援・教育開発センター会議承認



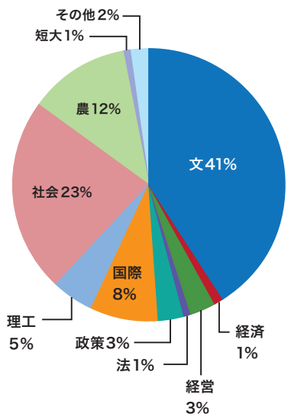
2018年度ライティングサポートセンター実績報告

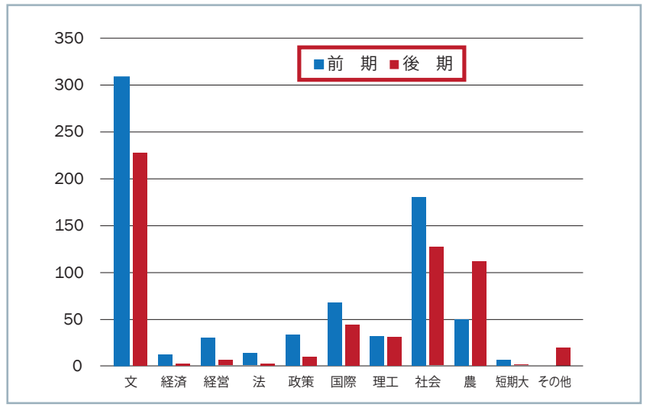
今年度4月に開設したライティングサポートセンターでは、「論理的に考える能力を養い、それにともなう表現の技術を高める。」「読み書き能力の向上にとどまらず、分析力を高める。」の2点を基本理念として、現場統括者のライティングスーパーバイザーのもと、約20名のライティングチューター（大学院生）が、本学学生のレポートや卒業論文などの作成にあたりライティングに関する相談に応じています。

2018年度の実績は以下のとおりです。

（単位：人）

	文	経済	経営	法	政策	国際	理工	社会	農	短期大	その他	合計
前　期	308	12	31	14	34	68	32	180	49	7	0	735
後　期	228	2	6	2	10	44	31	127	112	1	20	583
合計	536	14	37	16	44	112	63	307	161	8	20	1,318





2018年度学修支援・教育開発　センター事業内容報告

1.教育開発・研究

(1) 自己応募研究プロジェクト

教育改革を推進する一環として、次の7件の自己応募研究プロジェクトを推進した。

また、研究成果の共有を目的として、昨年度に引き続き「自己応募研究プロジェクトポスター展示」を、3月26日から4月15日の期間に深草学舎及び瀬田学舎において実施した。

テーマ	代表者
初回の心理療法における治療関係構築に関する教材開発	吉川　悟（文学部）
英語媒体の補助資料活用のための教材開発	島根　良枝（経済学部）
ソーシャルデザインと創作アートを活用した「ものづくり型PBL」の実践と評価	神谷　祐介（経済学部）
学生の内的動機付けを高める英語カリキュラム開発に向けたNeeds Analysis	工藤　和也（経済学部）
大人数授業時における学生自発型LIVE授業へ向けたmanaba courseの活用	西岡　久充（経営学部）
Moodle機能を使ってのチーム基盤型学習（Team Based Learning/TBL）ー応用編ー	李　洙任（経営学部）
寺院を拠点としたPBL型授業の開発（通称：お寺 de PBL）	佐藤　龍子（農学部）

(2) 指定研究プロジェクト

2018年度指定研究プロジェクトについては、次の2件のプロジェクトを推進した。なお、指定研究プロジェクトの成果を共有するため、自己応募研究プロジェクトと同様にポスター展示を行った。

テーマ	代表者
eポートフォリオの導入および授業展開に関する調査	藤田　和弘 （理工学部／教学企画部長、学修支援・教育開発センター長）
機械学習を用いた教学データの分析	藤田　和弘 （理工学部／教学企画部長、学修支援・教育開発センター長）

2. 教育改善活動支援

(1) 学生による学期初めの授業アンケート

授業を展開する上で重要な学期初めにおいて、各教員が必要に応じて実施できる授業アンケートが有用であることから、授業期間初期における授業改善（学生へのフィードバック等含む）が可能となるよう、以下のとおり「学生による学期初めの授業アンケート」を実施した。

対象科目：2018年度第1学期・第2学期全開講科目

■第1学期実施状況（実施期間 4月9日～4月21日）

利用枚数	10,914 枚

■第2学期実施状況（実施期間 9月20日～10月3日）

利用枚数	3,611 枚

(2) 学生による学期半ばの授業アンケート

学期半ばにおいて、受講している学生の授業に関するニーズや要望等を把握し授業内容・方法等の見直し・改善を行うとともに、その結果を学生にフィードバックすることで学生の学習意欲の向上につなげることを目的として、「学生による学期半ばの授業アンケート」を実施した。

対象科目：2018年度第1学期・第2学期全開講科目

■第1学期実施状況（実施期間 5月29日～6月11日）

利用枚数	9,095 枚

■第2学期実施状況（実施期間11月5日～11月15日）

利用枚数	6,414 枚

(3) 学生による学期末の授業アンケート

昨年度に引き続き「学生による学期末の授業アンケート」を実施した。

学期末の授業アンケートの実施方法については、2016年度よりこれまでの紙媒体（一部Web含む）から、manaba course上で実施する形へ全面移行した。アンケートの実施状況については以下のとおりである。

対象科目：2018年度第1学期・第2学期開講の講義科目

※原則、講義科目は実施することとし、演習・実習等の科目や研究科科目については、各開講責任組織で判断し実施した。

■第1学期実施状況（実施期間 2018年7月9日～8月6日）

対象科目数	3,084 科目	受講登録者数	161,602 人
実施科目数	2,751 科目	回答者数	39,475人
実施率	89.2%	回答率	24.4%

※実施率　回答科目(1名以上の回答があった科目)数÷対象科目数×100
※回答率　回答者数÷受講登録者数×100

■第2学期実施状況（実施期間 2019年1月7日～2月2日）

対象科目数	2,953 科目	受講登録者数	150,984 人
実施科目数	2,281 科目	回答者数	24,809人
実施率	77.2%	回答率	16.4%

※実施率　回答科目(1名以上の回答があった科目)数÷対象科目数×100
※回答率　回答者数÷受講登録者数×100

(4) 教学IR（Institutional Research）機能の整備

本学における教学IRの定義に基づき、他大学とのベンチマーク比較や、学生の学修成果の可視化につなげるため、2017年度に加盟した大学IRコンソーシアムが実施する学生調査を、文・経済・理工・社会・国際学部で実施した。（昨年度は、理工学部と国際学部のみ実施）

また、経年伸長も測定できる様、学生のジェネリックスキル等を測定する外部アセスメントテストの導入について、キャリアセンターと共同で検討し、2019年度から3年次でも実施することが決定した。

<本学における教学IRの定義>
「教学IRとは、教学における内部質保証体制の確立及び強化を目的として、教育全般に関する情報収集・提供及びデータ分析、並びに教学政策の策定及びその支援を行う取り組みのことをいう」

3. 教育活動交流・研修

(1) 専任教育職員新任者就任時研修会

昨年度に引き続き、龍谷大学に初めて着任した教員を対象に、龍谷大学の教育理念をはじめ、本学の教育研究活動支援サービスの利用方法等について研修を実施した。

開催日	研修名	主催／講師
4月1日、2日	2018年度 新任者就任時研修	吉岡　祥充（副学長） 藤田　和弘（学修支援・教育開発センター長） 深尾　昌峰（REC事務部長） 小室　昌志（研究部課長）

(2) FDフォーラム

「第14回龍谷大学FDフォーラム2018」として、龍谷IP・龍谷GPに選定されたものから、学修者本意の教育への転換をテーマにルーブリックやアクティブラーニングの取組で得た成果や課題を共有することを目的に開催した。

開催日	テーマ	内容
2019年 3月25日	龍谷大学における学修者本位の教育への転換 ～龍谷IP・龍谷GP事業による教育改革の事例報告～	龍谷IP・龍谷GPに選定されたものから、学修者本意の教育への転換をテーマにルーブリックやアクティブラーニングの取組の紹介

(3) FDサロン

学内教職員のFD活動に関する啓発と交流を図るため、以下のとおりFDサロンおよび勉強会を実施した。

また、学友会組織である十学部合同学生会と連携し、深草・瀬田学舎で2回ずつ学生FDサロンを開催した。

開催日	テーマ	主催／講師
4月20日	**<FDサロン>** 「ActiveLearning and Assessing Teamwork」（大学教育におけるアクティブラーニング及びルーブリックによるチームワークの評価） ～カナダ・クインズ大学の事例から～	Andy LEGER氏（カナダ・クインズ大学Centre for Teaching and Learning School of Rehabilitation Therapy准教授、東北大学高度教養教育・学生支援機構客員教授）
<瀬田>7月4日 <深草>7月5日	**<学生FDサロン>** 龍大一受けたい授業～理想の授業の受け方を考えよう～	十学部合同学生会
<瀬田>10月3日 <深草>10月4日	**<学生FDサロン>** 龍大一受けたい授業～学生が求める学びの到達点～	十学部合同学生会
10月16日	**<FDサロン>** 「高校現場ではどのような授業が行われているのか」 ～京都府立西城陽高校のアクティブラーニング型授業の事例から～	大川　沙織氏 （京都府立西城陽高等学校教諭・社会科）
12月12日	manaba course講習会 「manaba courseを使用した授業展開」 ～授業でマナバを使う人のために～	(株)朝日ネット（manaba course開発業者）担当者

(4) 公開授業

自己応募研究プロジェクトの中間報告として、以下のとおり公開授業や講評会を実施した。

開催日	代表者	テーマ
9月27日	吉川　悟（文学部）	初回の心理療法における治療関係構築に関する教材開発
10月22日	西岡　久充（経営学部）	大人数授業時における学生自発型LIVE授業へ向けたmanaba courseの活用
10月23日	李　洙任（経営学部）	Moodle機能を使ってのチーム基盤型学習（Team Based Learning/TBL）ー応用編ー
10月31日	佐藤　龍子（農学部）	寺院を拠点としたPBL型授業の開発（通称：お寺 de PBL）
12月 7日	工藤　和也（経済学部）	「学生の内的動機付けを高める英語カリキュラム開発に向けたNeed Analysis」のアンケート結果について
12月19日	神谷　祐介（経済学部）	ものづくり型PBLの実践例と教訓
12月20日	島根　良枝（経済学部）	英語媒体の補助資料を活用するための教材開発の例

(5) FD報告会（研修会含む）

昨年度に引き続き、各学部・研究科のFD活動の取組状況や成果を全学で共有するため、以下のとおりFD報告会を開催し、教学資産の共有とFDの普及を図った。

開催日	学部等	テーマ
4月 2日	法学部	「基礎演習」担当者説明会（兼FD）
4月 9日	理工学部 理工学研究科	Network業界自体とNetwork業界での仕事、Network業界で求められるskillについて
4月25日	経済学部	他大学経済学部の動向について
4月27日	国際文化学研究科	ランチタイムセミナー（Translating Dogen: Motivations and Challenges）
5月23日	理工学部 理工学研究科	ソーシャルデザインと創作アートを活用した「ものづくり型PBL」の実践と評価
5月24日	国際文化学研究科	ベルリンとイスタンブルの仏教資料 ～2017年度短期国外研究員研究成果報告～
5月30日	経済学部	経済学部における進路実績報告
	法学部	初年次教育に関するFD
	農学部	龍谷大学農学部の改革に関する調査報告
6月 7日	国際文化学研究科	ランチタイムセミナー（Cross-cultural Creative Changes in Indian Values）
6月12日～22日	国際学部	授業VISIT（公開授業week）
6月13日	経済学部	2018春学期 PSの活動報告
	法学部	龍谷大学法学部進路実績について
	国際学部	入学前教育プログラム実施報告会
	農学部	農学部完成年度以降へ向けた改革考察
7月 4日	社会学部	「manaba course」の利活用について
7月11日	文学部	大宮コモンズの現状と活用方策 ーコモンズの可視化についてー
	経済学部 経済学研究科	新任教員の研究紹介～ Yet Another Look at Omitted Variable Bias : A Two-Sample Alternative to Using Instruments ～
		ALやPALを取り入れて、教職員がどのように変わったのか
	法学部	龍谷大学法学部を取り巻く入試環境について
	国際学部	学部FD研究会
7月18日	短期大学部	「生と死・いのちを考えるプロジェクト」についての各学科の取組と教育効果の検討
7月25日	社会学部 社会学研究科	アジア諸国からの留学生動向について
8月 3日	経営学部	合同型演習における合同報告会Ⅰ
9月 5日	短期大学部	「「学生に保証する基本的な資質」に関する意識調査」検証結果について

開催日	学部等	テーマ
9月12日	法学部	「法政入門演習」担当者説明会
9月19日	法学部	「大学生基礎力レポートⅠ」の結果報告について
	理工学部 理工学研究科	外国語での教授法
10月10日	経済学部 経済学研究科	「マクロ経済学入門Ⅰ」及び「ミクロ経済学入門Ⅰ」の実施状況について
	実践真宗学研究科	龍谷大学実践真宗学研究科に関する分析報告書について
10月17日	経営学部	2018年度第2回経営学部FD報告会 ～2018年度プログラム科目実施報告会～
11月21日	短期大学部	今一度自らの授業を振り返ってみよう（2） ―大学における主体的・協働的な学びとは―
	短期大学部 社会福祉学科	実習指導における効果的なアクティブラーニングについて
11月28日	理工学研究科	society5.0について
12月 5日	政策学部 政策学研究科	政策実践・探究演習（海外）報告会
12月 8日	国際文化学研究科	日本国際文化学会 関係校大学院研究交流会
12月12日	政策学部	ポートランド国際CBLプログラム報告会
12月19日	法学部	「大学生基礎力レポートⅡ」の結果報告について
12月26日	経営学研究科	2018年度第1回経営学研究科FD報告会
2019年		
1月 9日	理工学部	現在の高等学校教育について
	国際学部	学生への支援について考える
1月16日	政策学部	地域連携型教育（CBL）プログラムのモデル化および質保証の実質化 ―現代のニーズに応える教育を目指して―
1月23日	文学部	卒業論文ルーブリックの再検討 ー卒業論文はこのままでよいかー
	理工学部	大学における安全保障輸出管理について
	国際学部	海外で実施するプログラムの危機管理について（引率時の注意点）
1月29日	経営学部	2018年度第3回経営学部FD報告会 ～合同型演習における合同報告会Ⅱ～
2月20日	農学部 農学研究科	社会人、留学生を含めた多様な大学院生に対する教育指導のあり方
2月27日	文学研究科	教員活動自己点検結果にかかる組織的活用の実質化について

4. 学修支援

(1) 学生の主体的な学修活動支援

「学生による『学び』の創造と交流の空間」をコンセプトとしたスチューデントコモンズの充実を図り、学生の主体的な学修活動を支援した。

また、これまでキャンパス毎に展開してきたライティング支援について、2018年度から大宮コモンズが開設されることに伴い、全学的な学修支援組織としてライティングサポートセンターを設置した。

■ライティングサポートセンター利用状況

場所	開室日	利用者数（延べ数）
深草	週5日	590人
大宮	前期：週3日 後期：週2日	176人
瀬田	週3日	552人
計		1,318人

(2) 学修支援に係る施設・設備の整備及び運営

深草コモンズでは、開設以来利用状況が低迷していたメディアスタジオ2室のうち1室をグループワークルームに用途変更し、学生ニーズにあった学修環境を整備した。

(3) 学修記録システム「eポートフォリオ」の構築

学生自らの正課及び正課外の諸活動に対し、その過程や成果を管理・蓄積できる仕組みとして、全学的に学修記録システムを構築するため、全学教学政策会議の下に、「eポートフォリオ導入検討委員会」を設置した。同委員会ではeポートフォリオの導入案の作成や導入方法等を検討し、2019年度は6学部（学科）が試行的にeポートフォリオを導入することとなった。

5. 学内外との連携、情報収集・発信

(1) 各学部・研究科との連携

各学部・研究科の取り組みに関する情報交換・共有を図るため、「学部FD協議会」「大学院FD協議会」を各1回開催した。

開催日	会議名	内容
6月8日	第1回学部FD協議会	2017年度各学部・研究科のFD活動報告について 2018年度各学部・研究科のFD活動計画について
	第1回大学院FD協議会	

※上記FD協議会については、学部・大学院の合同開催とした。

(2) 他大学等との連携

全国私立大学FD連携フォーラム、（社）私立大学連盟、（財）大学コンソーシアム京都、関西地区FD連絡協議会等が主催する各種フォーラムや研修会、講演会等に参加した。

(3) 情報収集・調査

学修支援・教育開発センターが中心となり、文教政策等、高等教育をめぐる動向についての情報収集を行い、各教学責任主体等に提供し、教育改革・改善を支援した。

(4) 学修支援・教育開発センター通信、学修支援・教育開発センター Newsの発行

・学修支援・教育開発センター通信 通算42～43号
・学修支援・教育開発センター News 1～44号

(5) 学修支援・教育開発センター Webサイトの充実

昨年度に引き続き、学修支援・教育開発センターの事業内容・成果等を広く社会に発信するため、適宜、学修支援・教育開発センターが主催・共催する各種イベント情報や教育活動支援ツール（「シラバス作成の手引き」等）の更新を行い、Webサイトの充実を図った。

新　着　図　書　紹　介

学習に何が最も効果的か ーメタ分析による学習の可視化 ◆教師編◆

出版年月：2017年6月
著者：ジョン・ハッティ／原田 信之
発行所：あいり出版
価格：3,024円（税込）
ページ数：358ページ
大きさ：A5判
ISBN: 9784865550351

1章　可視化された学習のインサイド
第1部　着想の源と教師の役割
2章　着想の源
3章　教師ー教育過程における重要な関与者
第2部　授業
4章　授業の準備
5章　授業を始める
6章　授業の流れ：学習
7章　授業の流れ：フィードバックの位置づけ
8章　授業の終わり
第3部　マインド・フレーム
9章　教師のマインド・フレーム、スクール・リーダー、システム
付表A「可視化された学習」チェックリスト
付表B 900超のメタ分析結果
付表C 到達度に及ぼす影響の一覧
付表D 巻末の演習からのランキングと、計画の影響の効果量
付表E 効果の大きさの計算
付表F アービングの学生「完成した教授スコア評価」

今求められる学力と学びとは ～コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影（日本標準ブックレット）

出版年月：2015年2月
著者：石井 英真
発行所：日本標準
価格：：972円（税込）
ページ数：78ページ
大きさ：A5判
ISBN: 9784820805823

次期学習指導要領改訂での導入が検討されているコンピテンシー・ベースのカリキュラムの根底を解説し、今目指すべき「学び」を論じる。

◆目次
第1章　コンピテンシー・ベースへのカリキュラム改革をどう見るか
第2章　めざす社会像と人間像から学力像をどう描くか
第3章　社会からの「実力」要求を学校カリキュラム全体でどう受け止めるか
第4章　今どのような教科の授業が求められるのか
第5章　新しい学びの追求において知識習得はどう位置づけられるのか
第6章　新しい学力と学びをどう評価していけばよいのか

学習評価 （シリーズ大学の教授法）

出版年月：2018年3月
著者：中島 英博
発行所：玉川大学出版部
価格：2,592円（税込）
ページ数：187ページ
大きさ：A5判
ISBN: 9784472405341

学習評価とは学生の学習成果を最大限に高める、より広範な教育活動のこと。レポート課題の評価、実技や実習の評価、ルーブリック評価、ポートフォリオ評価など、学生の学習活動を把握し、設定した学習目標に到達したかを、根拠を用いて可視化する方法を具体的に提示する。多くの教員が難しいと考える「評価」を理解する。
【執筆者】
中島英博　山田剛史　吉田博
久保田祐歌　中井俊樹

学習設計マニュアル 「おとな」になるための インストラクショナルデザイン

出版年月：2018年3月
編著：鈴木 克明／美馬 のゆり／竹岡 篤永／室田 真男&5
発行所：北大路書房
価格：2,376円（税込）
ページ数：248ページ
大きさ：A5判
ISBN: 9784762830136

本書は、これまでにあたりまえに行ってきた「学び」について、一度立ち止まって振り返りながら、さらに捉え直す機会として、しっかりと向き合い、自分の学習を設計できるように支援することが目的です。

インストラクショナルデザインの道具箱101

出版年月：2016年3月
監修：鈴木 克明
編著：市川 尚／根本 淳子
発行所：北大路書房
価格：2,376円（税込）
ページ数：250ページ
大きさ：A5判
ISBN: 9784762829260

企業研修や教育の効果・効率・魅力をどう高めるのか？ いわゆるKKD（経験と勘と度胸）やMD（自己流）から脱却し、ID（学習科学に基づいた教える技術）の道へと誘うアイデア集。「学びたさ」「学びやすさ」「わかりやすさ」「ムダのなさ」などを改善する101の道具を厳選。その解説と実践事例を見開き2頁で提供。

インタラクティブ・ティーチング アクティブ・ラーニングを促す授業づくり

出版年月：2017年2月
著者：栗田 佳代子／日本教育研究イノベーションセンター
発行所：河合出版
価格：2,700円（税込）
ページ数：233ページ
大きさ：B5判
ISBN: 9784777217946

「インタラクティブ・ティーチング」とは、学習者の主体的な学びを引き出し、これを支え、促進することを目的に掲げ、学習者相互および学習者・教授者間の教育的コミュニケーションを重視した教え方のことです。オンライン講座「インタラクティブ・ティーチング」では、特に「教える力」の向上に繋がるような実践性を重視し、ナレッジ、スキル、ストーリーという三つのセッションで構成されたコンテンツを提供してきました。本書は、この構成を忠実に再現すると同時にこれに加筆し、「アクティブ・ラーニングを学習活動にいかに組み込めばよいのか」という、教育観のパラダイム・シフトを背景とした喫緊の教育課題に対応した内容で構成されています。

世界のエリートが今一番入りたい大学ミネルバ

出版年月：2018年7月
著者：山本 秀樹
発行所：ダイヤモンド社
価格：1,944円（税込）
ページ数：297ページ
大きさ：B6判
ISBN: 9784478105344

最高の教育を、適正な価格で、より多くの人へ一真の教育革命を遂げる「仕組み」をつりあげた驚異のベンチャー大学「ミネルバ」の全貌を、初めて明かす！
・校舎がない（4年間で世界の7都市をめぐる）
・教師は「講義」も「テスト」もしない
・全寮制なのに、授業はすべてオンライン

大学総合研究センターの今 ー教育改革に挑む早稲田

出版年月：2019年3月
編著：早稲田大学大学総合研究センター
発行所：早稲田大学出版部
価格：2,700円（税込）
ページ数：180ページ
大きさ：A5判
ISBN: 9784657190024

高等教育確信の道のり。IR、FD、eラーニングなど、さまざまな改革に教職協働で取り組んできた「大総研」。設置から4年間の取組を総括するとともに、早稲田の教育のあり方について今度の課題と展望を述べる。

図書貸し出しのご案内

学修支援・教育開発センターでは、高等教育やFDに関する図書を購入し、教職員へ貸し出しを行っておりますので、是非ご利用ください。専任教職員につきましては、学内便での貸し出しも可能です。1. お名前、2. ご所属、3. 教員／職員の別、4. 貸出希望の書名、5, 著者名を明記の上、dche@ad.ryukoku.ac.jp までお申込ください。
詳細は、http://fd.ryukoku.ac.jp/for_teacher/siryou/ をご参照ください。